

小学校第3学年
音楽

KAWAI

リコーダーのタンギングを可視化して確認し、
音色と演奏の仕方との関わりに気付く。

小学校第3学年 音楽 「こんにちは リコーダー」

■ 題材の目標

リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりに気付くとともに、音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付け、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもち、リコーダーに親しむ。

■ 題材の概要

リコーダー学習の導入となる題材では、リコーダーの表現に興味や関心をもつ活動から入る。タンギングの仕方と音色や響きとの関わりに気付くとともに、タンギングによって変化する音の表情を聴き取って、曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。

■ 題材の指導計画（3時間）

第1時

- ・リコーダーの音色のよさを味わうとともに、リコーダーの取扱いについて知り、リコーダーに親しむ。

第2時

- ・リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりに気付く。

第3時

- ・曲の特徴を捉えた表現を工夫する。
- ・思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付けて演奏する。

■ 学習活動の概要

リコーダーによる演奏を音色に着目しながら聴き、リコーダーの表現に興味・関心をもつとともに、楽器の持ち方などリコーダーの取扱いについて知る。

スペクトログラムを用いて自分や友達が演奏したリコーダーのタンギングを可視化して確認し、タンギングの仕方によって変化する音の表情を聴き取る。

シ→ラ→ソと次第に音を増やしながら曲を演奏し、リコーダーの指使いに慣れながら、第2時で学んだタンギングなど演奏の仕方についての知識や技能を生かして、表現を工夫して演奏する。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2時）

【学習活動の場面】

シの音だけの曲を用いて、リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりに気付く学習を行った。まず教師は、スペクトログラムを用いてタンギングによる演奏を可視化して子供たちに見せた。その後、ペアでタンギングの仕方によって変化する音色や響きを視覚的に確認しながら演奏する活動を行った。

【子供の「深い学び」の姿】

まずシの音だけを吹いて、スペクトログラムの画面にリアルタイムで表示される自分の出した音を確認する。

A「こんなふうに自分の吹いた音が見えるんだね。」

次に、教師がタンギングして演奏したり、タンギングしないで演奏したりし、その違いをスペクトログラムで可視化して子供に見せる。

A「先生が吹いた音ははっきりしているね。画面で見ると、すき間が空いている。こうやって吹くためにはどうしたらいいのかな。」

B「舌を使っているんじゃないかな。やって確かめたい。」

教師「そう、先生は舌を使って音を区切っていました。これをタンギングと言います。タンギングが上手になるおまじないがあるので紹介します。ルルトトウー。」

子供たちは個々にタンギングでの演奏を試し、端末で確認する。

A「おまじないのようにトゥトゥと吹いたら、音にすき間ができたよ。」

B「画面でもすき間が空いているのがわかるね。」

【当該指導での「深い学び」】

タンギングをして音を区切って吹くことができるようになるためには、まず、タンギングをした演奏とタンギングをしない演奏の違いを聞き分けられるようになることが必要である。スペクトログラムを活用してタンギングによる音の変化を可視化することは、その違いを聞き分けることの助けになる。子供たちは教師の範奏の特徴を耳と目で確認し、それに近付くために端末を活用し、自分の演奏を視覚的に確認しながら試すことで、音色と演奏の仕方との関わりに気付いていった。

■指導上の工夫とICTの利活用

①教師がタンギングをした演奏とタンギングをしない演奏の両方を聴かせることで、違いに気付くことから始める。

*この時、スペクトログラムで可視化することで、違いを聞き取ることに慣れていなかったり、難しいと感じたりする子供も、視覚的に確認することで、音の違いを聞き取りやすくしている。



②個々にタンギングでの演奏を試し、端末を活用して確認しながら、音色と演奏の仕方の関係について試行錯誤できるようにしている。

*スペクトログラムはリアルタイムで音を可視化することが可能なため、即時的に自分の吹いたタンギングを確認することができる。それによって、自分の音の特徴を捉えながら、舌や息の使い方を試すことができる。

学習指導要領や解説との関連

学習指導要領 第2章第6節 音楽

第2 各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕2内容

A表現

(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。

(1) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(1) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。